



TOCOM

2020

9 月号

トヨーサークル

手をつないで明日をつくろう

No. 472

2020年度下期に向けて

株式会社トヨテック

代表取締役専務 小野 理



酷暑だった今年の夏も9月初旬に九州地方を襲った大型台風が去り、少しずつ季節は秋を感じさせるようになりました。中国工場からは10月1日の中秋節の月餅の話題が聞こえる季節となり、季節の変化を感じると共に、今月はトヨーサークル各社事業の上期総仕上げの月となります。特に本年度の上期は、急激な注文変動による稼働調整や人の移動の制約など、特別な対応が求められました。また生産工場では、生産性と品質向上の改革行動や開発においても、将来の受注に向けた技術構築の取り組み、営業体制の見直しや人事評価制度改革など、まだ試行中ではありますがコロナ禍の中で組織を挙げて取り組んで参りました。しかしながら、上期実績は市場の状況もあり厳しい結果が予測されます。

これらの成果を考察し、下半期に向けて、お客様の満足度が更に得られる事を念頭に、上期の挽回や改革を加速する施策をしっかり練って参りたいと思います。引き続き厳しい状況も予測されますが、各職場へのブレークダウンや方針説明を行いますので、下期経営計画の実践、予算達成に向けて協力をお願い致します。

下期以降の事業方針を思案するにあたり、昨年からの市場変化や貿易摩擦などに伴う変化点に加え、歴史的災厄である新型コロナウイルスの強烈な影響により、今までにない新しい常識や仕組みが現れ、時が過ぎても元と同じ状態には戻らない事象があります。これらを如何に方針や仕事のやり方に取り入れられるかが大変重要だと考えます。歴史を振り返れば、2008年のリーマンショック後に経済や金融を中心に同様の状況があり「ニューノーマル」（中国では「新常态」）と呼ばれました。

私たちは今、「テレワーク」や「リモート」「Zoom」や「Web 会議」等々、半年前まで全く使わなかった沢山の新しい言葉や行動形態、価値観を当たり前で日常で扱うようになりました。未だ国際間では人の移動も大きな制約があり、新型コロナウイルスの強烈な影響は国の在り方、指導力から始まり、経済環境、働き方、生活や学習環境など、先の「ニューノーマル」「新常态」とは比べ物にならない、大きな変化をもたらしています。一方、米国では新型コロナウイルスの影響で失業者が多くなっているにも関わらず、企業では人材不足というパラドックス（矛盾）が生じ、必要とする人員や技能者不足をロボットや自動化で補う事が急速に進みつつあると言われています。他方「DX」（Digital transformation）や「SaaS」（Software as a Service）というような5G時代の基盤となる新しいITサービス市場が躍進しており、テレワーク環境下で多くのスタートアップ企業が盛んに開発を始めています。いずれも2020年の「ニューノーマル」「新常态」時代の一端だと思います。

下期の経営計画に話を戻せば、私たちの仕事のやり方も本質を追求しつつも今までの常識の概念を今一度見直し、予知予防を徹底的に考慮し、新しい時代の事象を取り入れた実践計画が必要になります。その為にも各自が向上心を持ち、変化を敏感に使いこなし、楽しむくらいの気概を持って職場を変えて行く事が不可欠だと考えます。

「ニューノーマル」「新常态」の下期がいよいよ始まります。季節の変わり目ですので健康には十分留意して下さい。

TOCOM

TOYO CIRCLE COMMUNITY MANAGEMENT

防災訓練実施

2020年9月1日(火)全体集会終了後、サークル本部、トヨタック管理棟、光学技術センター、ジュコー技術センターにおいて、防災訓練が実施されました。

避難訓練は、午前8時40分、就業中に気象庁から「緊急地震速報」が発令され、震度6強の地震が発生したことを想定し行われました。



各地区の防火管理者

(左から 外村 理さん、清原 辰時さん、杉山 真一さん)

「天災は忘れた頃にやってくる」
「備えあれば憂いなし」という諺があります。
職場のみならず、家庭でも火事や地震などの災害が起きた時にいつでも対応できるように準備をしておくことが大切です。
(清原防火管理者コメント)

また、消火器取扱い訓練では、各地区の指名者8名が防火管理者の指導に基づき、水消火器による模擬消火訓練を行いました。



避難訓練の様子
(ジュコー技術センター)



模擬消火訓練の様子

「変わる!」樹光工場 レポート

樹光工場では、2020年度のテーマを「変わる」、活動テーマを「徹底的に3S」とし、独自の取り組みとして、工場内を8つのエリアに分けてチームごとに3S推進活動を積極的に行っています。



食堂の壁一面に3S推進ボードを設置



3階事務所のレイアウトを変更



見学通路を見える化

3S = 整理、整頓、安全
3定 = 定置、定品、定量

「顧客が使いたくなる会社」であること

清水上級執行役(兼工場長)は、長年の経験から「仕事を取りたければ、安い見積りを出すのではなく、成長出来る企業である姿を見せる事が重要であり、それが顧客が使いたくなる会社である」という定見を持たれ、実践されています。

現在、5Sの基礎である「3S3定」を徹底的に行い、「ムリ、ムダ、ムラ」をなくす事を目標に取り組んでいます。

樹光工場スタッフが丸となり「変わる」に向けて取り組んだ3S推進活動は、着実に成果を上げています。

TOCOM 提案委員会 活動レポート

TOCOM 提案委員会では、昭和55年から続いているTOCOM 提案規定の改訂を検討しています。その歴史を大切にしながら、より現代に沿う内容に改善して行くよう取り組んでいます。

「重要なのは、社員一人一人の提案に対する意識の向上と、優秀な提案を社員間で共有して行く事です。

各職場に掲示しているポスターで『改善提案の定石』は、改善提案に取り組むにあたってベースになる考え方を示していますので、是非ともヒントにしてください。」(若松委員長コメント)



若松委員長と各地区代表の皆さん

第23回 優秀改善提案展 開催のお知らせ

下記期間で、優秀改善提案を展示いたします。皆さんの感性、感覚で良いと思ったものに投票をお願いします。

■ 展示日程

光学技術センター1階通用口	10/19(月)~10/21(水)
樹光工場3階食堂	10/22(木)~10/26(月)
一宮工場2階食堂	10/27(火)~10/29(木)

各地区ごとに 参考書「改善基礎講座」を設置しました。



「改善は苦手」「改善をやらされている」と思っている方は、是非この本を読んでみてください。

トヨタック先輩 INTERVIEW



トヨタック執行役
豊秀光学 董事 兼任

内藤 好文

1960年 東栄町生まれ。
1988年 東洋精工 入社。
2001年にトヨタックへ転籍し、光学工場 工場長、東洋豊技工廠総経理、光学事業部事業部長などを経て、現在に至る。



入社当時通勤していた”トヨタ86”
日本自動車博物館にて



ユンポを使ってバイクの
コースづくり

スティックでハマリやすい性格だという内藤さんは、乗り物や機械系が大好きだそうです。

一番長い趣味は入社前から続けているトライアルで、自宅敷地内に自らコースを作って練習されたり、「新城探検隊」というバイクチームの鬼コーチをされています。現在は主にゴルフや、ご自宅とお庭のDIY まで幅広く、プライベートもとてもアグレッシブ!!「ものづくりが好きなんだよね」と楽しそうに生き生きとお話して下さる姿が印象的でした。



トライアル練習の様子

勤続32年！

「ものづくりが好き」の人生を辿る。

2020年9月に還暦を迎えられた執行役の内藤好文さん。長年お勤め頂いたトヨタックへの想いと、定年・再雇用という節目に立った心境をインタビューしました。

■ トヨタックでの一番の思い出・ターニングポイントを教えてください。

東洋精工で働いている時代、現場の3 K (きつい、汚い、危険) を改善するために、私が設計開発した機械「通称：ブルブルくん」が特許を取得し、その機械のおかげで1日かかっていた作業が数分で終わるようになりました。

更に、その機械の営業活動まで担当させてもらえたことが、大きな自信に繋がりました。



1999年 展示会の様子
(当時39歳)

■ 仕事をする上で大切にしていることは何ですか。

何をするにも「早さ」を大切にしています。「正確に、より早く実現させる事」を心掛けてきました。遅いことは誰にでも出来ます。せっかちだと言われる事もありますけどね。(笑) 決して無謀な事はしません。自分なりに計算した上で行動する事が前提です。

